

(二) 代々木競技場

(第一体育館)

☆水泳競技

① 競泳及び飛込

十一日の女子飛板飛込みの第一予選(午前規定三課題)では、日本の馬淵、渡辺両選手はそれぞれ十四位、十五位であったが、午後第二予選、規定二課題、選択二課題で好成績を上げ、それぞれ七位、八位に上がり、明日の決勝に進出した。

一方男子百メートル自由形予選では日本の岡部、後藤、森本の三選手は、いづれも55秒台で予選は通過し、夜の準決勝では岡部が55秒2の日本タイ記録を出しはしたが、力及ばず、他の二選手ともども落選した。

夜には行って行われた男子二百メートル背泳予選では一組のベネ

ット(米)が新五輪記録を出したあと、二組の福島、三組のグレイフ(米)、五組のデイリー(米)が次々とこれを更新した。日本選手は福島のほか大隅、伊藤両選手とも通過、明日の準決勝へ進んだ。

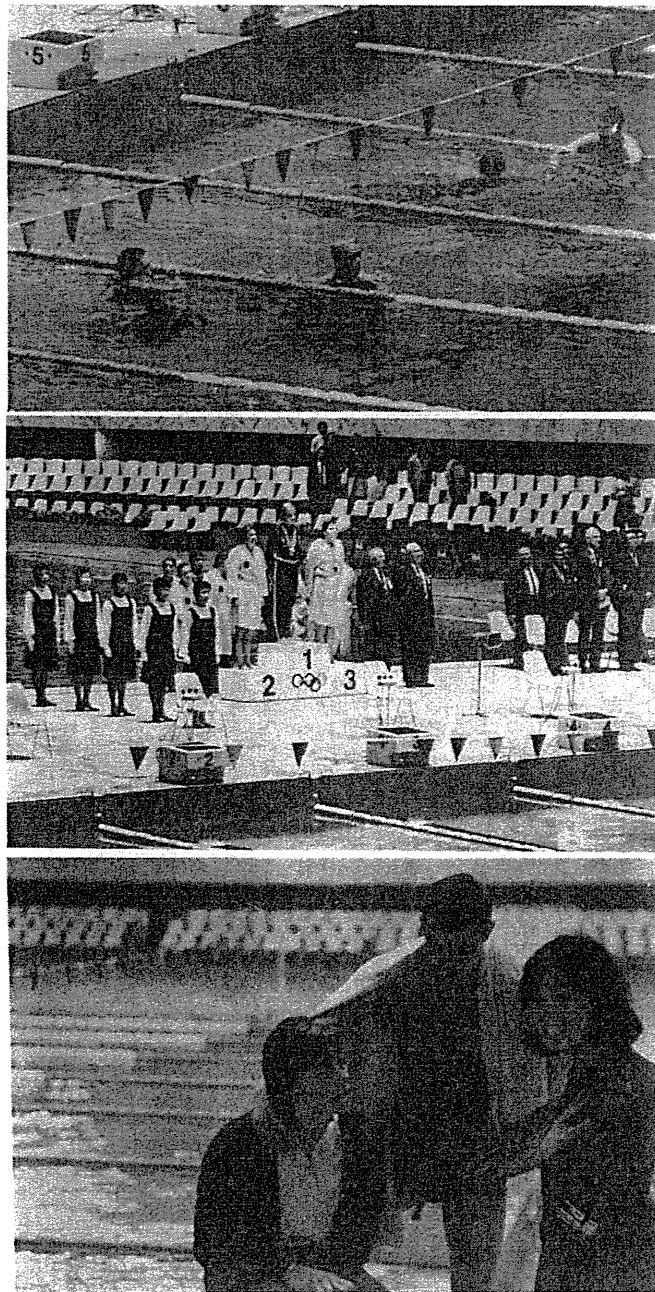
十二日女子飛板飛込みの決勝が行なわれ、ドイツのエンデル・クレーマーが群を抜くうまさでローマ大会に続き二連勝した。前宙返り二回半かかえ型といい、前宙返り一回半えび形の難技をいづれも軽快にこなしていた。日本の馬淵選手は健闘したが七位、渡辺選手は九位に終わった。

夜の男子二百メートル背泳準決勝は一組で福島選手二位になり明日の決勝に進出することになった。

十三日、オリンピック新種目の男子四百メートルリレーは一組に

日本が、岡部、岩崎、石原、後藤で出場、3分42秒3の日本新記録で予選通過、明日の決勝に進出した。注目の女子百メートル背泳予選はキャロン(仏)が1分8秒5の新五輪記録で楽々と予選通過、日本の田中選手も1分10秒0で通過した。男子二百メートル平泳予選では日本の鶴峯、松本、敷石の三選手とも通過。中でも敷石選手は松本選手のもつ日本記録を0秒2ちぢめた。この日最後の競技、男子二百メートル背泳決勝ではグレイフ(米)が2分10秒3の新世界記録、新五輪記録で優勝、日本のホープ福島選手はゴール直前、ネット(米)に追い込まれ、肉眼ではとうてい判定しがたい0秒1の差で四位、メダルを逸した。この着眼判定は、ローマ大会でのトラブルを起さぬようブルのケーブルに装置された「タッチ板」に手先なり体なりがふれると自動的に着順とタイムが印刷されて出てくる松下電器産業が開発した日本自慢の「自動計時審判装置」によるもので、きわどいせり合いには百分の一秒までのタイムが測れるこの精密な測定器械に福島選手は無念の涙をのまざるを得なかった。

十四日、男子四百メートル自由形予選では、日本選手は、山中が



ぎりぎりの八番目で通過。注目の

男子二百メートル平泳準決勝も鶴
峯一人が決勝へ進んだ。女子百メ
ートルバタフライ予選では高橋選
手が自己の日本記録を0秒1更新
する1分8秒4の新日本記録を出
して佐藤選手共々準決勝進出し
た。女子四百メートルリレー予選
は、浦上、木原、木村、東で出
場、日本記録を7秒3更新する4
分19秒2を出したが出場十チーム

中最下位で落選した。

夜の決勝では、まず男子四百メ
ートルリレーが行われ、米國チー
ムが驚異的な3分33秒2の新世界
記録で優勝、日本は3分40秒5の
新日本記録を出すという健闘ぶり
であったが四位にとどまった。女
子百メートル背泳決勝はフアীগ
子(米)が1分7秒7の新世界
記録、新五輪記録で優勝、日本の
ホープ田中選手は懸命に力泳し1

分8秒6の新日本記録を出したに

も拘らず四位に終り、またまた日
本はメダルを獲得できずに四日目
の競技を終えた。
十五日、男子四百メートルメド
レーリレー予選は一組に日本は、
福島、石川、中島、岡部で出場、
三位で通過した。
夜に入って行われた女子百メー
トルバタフライ準決勝に高橋選手
は1分7秒8の新日本記録を出し

明日の決勝へ進出した。続いて競

泳三種目の決戦が行われたが、最
初の男子四百メートル自由形では
十八才の怪童シヨランダ(米)
が4分12秒2の新世界、新五輪記
録で優勝、前日までの百メートル
自由形と、四百メートルリレーを
合わせ三つ目の金メダルを獲得し
た。日本の山中選手は後半よく追
い上げ六位に入賞した。男子二百
メートル平泳決勝も日本の鶴峯選

手よく健闘六位にはいった。

十六日、男子二百メートルバタフライ予選では日本の佐藤、門永大林の三選手とも明日の準決勝へ進んだ。女子四百メートルリレー予選は田中、山本、高橋、木原の日本組が4分40秒6の新日本記録で二位で通過、決勝へ進んだ。レ

ース前から大記録樹立が予想されていた男子四百メートルメドレーリレー決勝は、4分のカベを破る3分58秒4の新世界、新五輪記録でアメリカチームが圧勝、日本チームも福島、石川、中島、岡部でがんばり五位に入賞した。

十七日、男子八百メートルリレー予選で日本チームは福井、岩崎、庄司、山中で8分10秒4を出し、予選タイム四位で明日最終日の決勝に進んだ。夜行われた男子高飛び予選では、午前十三位だった大坪選手が九四・三二をあげ三位で明日の決勝へ進出。予選の最終課題であった自由選択では「うしろ陸切り前宙がえり二回半」で見事なフォームを見せ、入水も直線で見事な文句のつけどころのない演技であった。千五百メートル自由形決勝はウィンドル(豪)が17分1秒7の新五輪記録で優勝。日本の佐々木選手は健闘よく六位に入賞した。

十八日、最終日を迎えた水泳競技は、午前十時から決勝五種目をこなした。男子高飛び込みは、前日まで六位だったウエブスター(米)が、この日の自由選択飛び三課題で高点を出し、ローマ大会に続いて二連勝した。日本の大坪選手は二回目の後ろ宙返りが弱い陸切りで入水が浅くなり、三位から八位に落ち入賞できなかった。男子二百メートルバタフライ決勝では世界記録保持者のベリー(豪)が、新世界、新五輪で、優勝日本の門永選手は初めから強い足のビートで積極的に運んだのがよく七位のヒル(豪)とわずかの差で六位入賞した。

夜にはいって行われた女子四百メートルメドレーリレーはやはりアメリカチームが断然強く4分33秒9の新世界、新五輪記録で優勝、日本チームは田中、山本、高橋、木原でよく頑張ったが惜しくも及ばず銅メダルを逸し四位となった。大会最後の種目、男子八百メートルリレー決勝で待望の日の丸があがった。この種目もやはりアメリカチームの独壇場で、7分52秒という大記録、新世界、新五輪記録で優勝。

日本チームも8分3秒8と日本記録を6秒0更新する新日本記録で見事三位に入賞、水泳初の銅メダルを最終日の最終種目で獲得した。

水球競技は十月十一日から東京体育館屋内水泳場で予選リーグが行われていたが、十四日から準決勝リーグに入り、オランダ対ハンガリー戦が、このプールで行われ六対五でハンガリーが勝った。十五日の準決勝ではユーゴ対ハンガリーの一戦が行われ、双方とも互いにゆずらず四対四の引合けに終わった。

十七日は、決勝リーグのうちユーゴ対ソ連戦が行われ、接戦の末ユーゴが第三ピリオドに二点をあげそのまま逃げ切った。十八日の最終日、決勝リーグのソ連対ハンガリー戦が行われ、後半ハンガリーの追い込みなり、ソ連を破った。この結果、ユーゴとハンガリーは二勝一分けの同率となったが、得点率でハンガリーが上回り五度目の優勝が決った。二位はユーゴ、三位はソ連となった。

場第一体育館で水泳、東京大学検見川総合運動場で断続競技が行われる近代五種競技は、十四日午後このプールで水泳(三百メートル自由形)が行われた。スウェーデンのヤンセンが3分45秒2、一〇七五点で一位、日本の三選手は、十一位内野3分57秒4、一〇一五点、二十五位福留4分10秒4、九五〇点、三十一位三野4分20秒1、九〇〇点、水泳団体では二八六五点と九位であった。

② 水 球

十一月から予選リーグ開始、連日八試合の予選で会場をわかし、二十三日ソ連とアメリカで優勝が争われ、総合力に勝るアメリカが優勝、二位ソ連、三位ブラジルとなった。

☆バスケットボール競技

日本はプエルトリコと対戦。前半は二四対二二とワンゴールをリードしたが、後半プエルトリコの反撃にあい、結局六五対五五と逆転負けした。

☆近代五種 (水泳)

朝霞根津パークで馬術、早稲田大学記念会堂でフェンシング、朝霞射撃場で射撃、ここ代々木競技場十三日、日本はカナダと対戦、

		メダル獲得数				(最終結果)						
		金	銀	銅	計	ス	イ	ス	1	2	1	4
アメリカ	カ連本	36	26	28	90	スカイ	イナン	スダド	1	2	1	4
ソ連	本	30	31	35	96	イ	ン	ド	1	0	0	1
日本	16	5	8	29	96	エ	オ	ア	1	0	0	1
イタリ	10	22	18	50	96	チ	ハ	マ	1	0	0	1
ハンガ	10	7	7	27	50	ニ	ダ	ド	0	2	1	3
ポーラ	7	6	10	23	27	ゴ	ニ	ド	0	1	2	3
オース	6	2	10	18	23	ユ	ニ	ア	0	1	1	2
チェコ	5	6	3	14	18	イ	ス	ン	0	1	0	1
ブルガ	4	12	2	18	14	キ	ス	ン	0	1	0	1
フィン	3	0	2	5	18	エ	ス	ン	0	1	0	1
ニュー	3	0	2	5	5	ラ	ラ	ン	0	0	2	2
ルーマ	2	4	6	12	5	イ	ラ	ン	0	0	1	1
オース	2	4	4	10	10	ブ	ニ	ル	0	0	1	1
トラル	2	3	1	6	10	ガ	ニ	ル	0	0	1	1
スウェ	2	2	4	8	6	エ	シ	ル	0	0	1	1
デンマ	2	1	3	6	8	ケ	ジ	ル	0	0	1	1
ユール	2	1	2	5	6	メ	エ	ル	0	0	1	1
ベネラ	1	8	6	15	5	ナ	グ	ル	0	0	1	1
					計				163	167	174	504

注目の優勝決定戦は、せり合いからアメリカがリードしてゲームは進行、随所にスピードとテクニクを織り込んだ攻撃ぶり、素晴らしいシュート力を見せ七三対五九とソ連に快勝、オリンピックバスケットボール六回連続優勝をとげた。

良いディフェンスでカナダをおさえ、初の一勝をあげた。
 十四日、ハンガリーと対戦した日本は五八対四一とハンガリーを破り、二勝二敗となった。
 一日おいた十六日、日本はソ連と対戦、七二対六八で善戦むなしく破れた。
 十七日の第一試合は、日本対イタリア、日本勢はシュートが成功するたびに会場をゆるがす観衆の拍手に守られてすばらしいプレーを展開、大接戦の末七二対六八で見事強敵をおろした。この結果日本は三勝三敗となり、明日の対メキシコ戦に勝てばベスト八に残れることとなり期待された。
 十八日、バスケットファンの期待の中に対メキシコ戦が開始され、接戦のうちに競技は進められ、うまくすると期待されたが日本選手はベスト八を意識しすぎたが、日本側はミスが多く自滅、六四対五七で破れ十位に終わった。
 三、四位決定戦ブラジル対アエルトリコは銅メダルをかけて激しく戦ったが七六対六〇という大差でブラジルが勝った。
 注目の優勝決定戦は、せり合いからアメリカがリードしてゲームは進行、随所にスピードとテクニクを織り込んだ攻撃ぶり、素晴らしいシュート力を見せ七三対五九とソ連に快勝、オリンピックバスケットボール六回連続優勝をとげた。